

「知る人ぞ知る」だけでは、もったいない。近江八幡の古代に思いを巡らす。

西川秀夫

最近、ボランティアガイドをして思うことだが、ヴォーリズ建築や八幡城址と八幡堀や八幡商人の街並みを散策する観光客は随分増えたように思う。また大河ドラマの影響で安土城跡やその城下巡り、長命寺・観音正寺の西国33か所巡りの観光客も増えていると聞いているし、中山道ウォークで武佐宿を中心とした長光寺や伊庭貞剛生家跡周辺のガイドの需要も伸びている。しかしである。そこで表題の件に思い至るわけだが、その切っ掛けは、日牟礼八幡宮にある。691年藤原不比等が詠んだとされる「天降りの神の誕生の八幡かも ひむれの社になびく白雲」の和歌にある。ここから日牟礼社と改められたと云われるが、その前の273年、応神天皇が母・神功皇后の出身地息長に行幸の途中に奥津島神社に参拝の折、この社の近辺に御座所が設けられ休息した。その後、御座所跡に日輪の形が2つ見えたので祠を建て「日群（ひむれ）の社」と称されていたというのである。（余談であるがVG会員のY氏から日輪の形を2つ見えたという市内のある場所で撮った不思議な現象の写真を見せてもらったことがある。スマホ写真だから合成ではなかった。）応神天皇の行幸の際に津（南津田）から松明で先導したのが八幡祭の起源とされているが、市井氏の説明がないので不十分であるが、これは後述する。991年一条天皇の勅願により宇佐八幡宮を八幡山の山頂に勧請して八幡宮を祀った。ここで日牟礼と八幡宮の名前が合体（習合）するのであるが、先述の藤原不比等の和歌にある「八幡」は何なのか。という疑問である。元来は秦氏系の鍛冶の神が応神天皇と何故結びつくのか分からない部分でもある。鍛冶の神とすれば古代近江は息長氏、三上氏＝天御影＝天目一箇神などの鍛冶集団ばかりになってしまう。（余談だが稲荷も元は鑄成いなりで秦氏系の鍛冶の神であった。農耕具を制作したことから稲成・稲生となったのである。）なお、不比等の当時既に応神天皇は八幡神と同一と考えられていれば、この八幡は→応神天皇と読めば納得はできる。九州福岡に住んでいる長男の子の初宮詣は「宇美八幡宮」であった、その神社は神功皇后が応神天皇を生んだ場所で八幡大神御降誕の聖地でした。「御産舎の四辺に八つの幡を立て、兵士に守らせた故事」があり、「後世八幡大神と称するは此故なり」と社伝にも伝えられています。なお「781年朝廷は大仏建立を助けた宇佐八幡に仏教守護の神として八幡大菩薩（はちまんだいぼさつ）の神号を贈ったとの記述もある。」また記紀の近江に戻るが、応神天皇が行幸の際に「和邇日触使主（ひふれのおみ）」の娘の宮主宅媛を見染めて妃にした記述がある。「和邇」とは「稲羽の素兔」物語に出てくる兔を裸にして乱暴した「ワニ」のことである。「ワニ」族は海洋民族で海人族といわれた、阿曇（安曇）族、息長族と同じ近江の古代豪族でもある。（息長氏は別エリアとして、地名的には安曇氏と和邇氏は混在している。志賀町の中に和邇があり、和邇の日牟礼の隣に安曇の地（アドチ＝安土）がある。）とにかく和邇の日触使主の系統で市井・一井（いちい）氏が日牟礼社の神職を務めたとある。（またまた余談だが、一井氏と三井氏は関係あるという話。14世紀ごろ市井氏・一井氏が日牟礼八幡宮の神職を目賀田氏に相伝したと日

牟礼八幡宮文書にある。目賀田氏は佐々木源氏に仕えた豪族でもあり、その出自は和邇氏と考えられる。その目賀田氏の同族に三井氏がいる。あの越後屋の三井氏である。)和邇氏の系統(派生)には市井氏の他に春日氏、小野(妹子)氏、柿本(人麻呂)氏、山上(憶良)氏などがある。参考までに関連神社としては小野神社(滋賀県)、柿本神社(奈良県)、浅間神社(あさま、山梨県)、浅間(セゲソ)神社(富士宮市)などがある。和邇氏以外の古代近江の豪族には息長氏、安曇氏、安(国造)氏、三上(天御影命)氏などがあるが、それらは又、別の機会に回して、話を先に進めよう。「和邇日触使主(ひふれのおみ)」の娘「宮主宅媛」は「菟道稚郎子(うじのわけいらつめ)」という皇子を生んだ。菟道稚郎子は同じ応神天皇の皇子である兄の大鷲鷲尊(おおさぎのみこと)=後の第16代仁徳天皇と王位を争い自殺したという。つまりは敗れて殺されたのでしょ。菟道稚郎子は、王仁(ワニ博士)を師として学んでいる。ん!ここにも「ワニ」が。その皇宮があった処には「宇治神社(二座)」が創建されている。藤原の時代に宇治川を挟んで宇治の平等院が建てられ鎮守の社とされた。つまり宇治神社の祭神である菟道稚郎子が阿弥陀仏を安置した平等院がある西方を拝するという図式である。現在この周辺には菟道(とどう)小学校や菟道高校があつてびっくりした。さらにこの宇治神社には「うさぎ」が関係していた。つまり稲羽の「うさぎ」と「ワニ」である。まだまだ私の知らない縁起があるのだろうか?興味は尽きないが、この話はここまでにして、もう一つの古代豪族の話を提起しておこう。藤原不比等とも関係するのだが、万葉歌人で「額田王(ぬかたのおおきみ)」を知らない人は居ないと思う。額田王ほど有名ではないが、同じく万葉歌人であつた「鏡王女(かがみのおおきみ)」はどうだろうか。鏡王女は額田王の姉と言われる。鏡王女は近江豪族鏡の里の鏡王の娘で、のちに藤原鎌足の奥さんになった方です。奈良興福寺の起源となる山階寺を建立されました。鏡王女と額田王の父である「鏡王」は壬申の乱のとき大友皇子(弘文天皇)派に付き戦死しています。その墓は千僧供古墳群の中にある(将軍塚か?)といわれています。また鏡王は天日槍の系統の豪族である。苗村や鏡村には天日槍の従者が住んだと記紀にあるからです。なお鏡王女と藤原鎌足の子のひとりに藤原不比等がいるので、あながち近江八幡と無関係ではない。また近辺の古墳群も多くある中で最近話題の雪野山古墳もその一つであるが、古墳の上に長光寺城が築かれているのである。安土の瓢箪山古墳もそう(狭々城山君=観音寺城)であろう。高島の稲荷山古墳と同じ前方後円墳であるから安曇氏系であろうと推測される。滋賀県の滋賀も→志賀であり、金印の志賀(シカ)島は安曇氏の本拠地だつたところである。安曇野と志賀島・志賀町、渥美などは安曇氏繋がりなのである。

そういった古代近江の歴史にロマン=思いを巡らすことも必要ではないだろうか。もう一つ日牟礼八幡宮で書くのを忘れていた。日牟礼八幡宮の祭神は応神天皇、神功皇后と比売神=宗像三女神(=玉依姫ともいうと社伝に書いてありますが。)先の二柱は分かるが、なぜ宗像三女神(主に市岐島姫)が祀られているのかということ。これには「びわこ霊ライン」が関係していると思う。対岸の白鬚神社(祭神は猿田彦命、比良大明神ともいうが比良は黄泉平坂であるとの説あり)から沖島(弁財天社=巖島神社)を見ると、その線上に大嶋奥津

島神社（祭神は大国主命と宗像三女神）、と日牟礼八幡宮があり、そのラインは一直線上になる。このラインを地図上で延長していくと伊勢（猿田彦神社・伊勢皇大神宮）に至るのである。これも不思議なことである。伊勢の親は多賀であるとは聞くが、宗像の子は住吉で、住吉の子は宇佐である。という言葉もよく耳にする言葉である。記紀神話にはトヨタマヒメの出産の項にも「ワニ」が出てくる。また妹の「玉依姫」も神武の母もしくは妻（この場合は建角身命の娘とする説による＝三輪の大物主とも関連が深い）として登場するが、もう一人の「玉依姫」を「＝区別のため活玉依姫と呼ぶ」は賀茂の建角身命（タケツノミノミコト＝八咫鳥の娘で賀茂別雷神を生む説でいく。（上賀茂神社・下賀茂神社の由来＝これらは出雲系である。）市内加茂町にある賀茂神社も同じ系列とみられる。また「元出雲」と呼ばれるのが亀岡にある「出雲大神宮」であることも最近知った次第である。これらの謂われなども又、別に機会があれば投稿したいところである。最後にもうひとつ。古代に関してもまだまだ言い足りないことは山ほどある。ましてや、中世から近世にかけての近江の歴史は、推して知るべしである。古代以上の引き出しがある。例えば、安土という名称に関して言うと、信長が岐阜と同じような手法で「平安楽土」から安土（城）とした。というのは誤り（俗説）である。安土城が築かれた地は目賀田山（砦跡）である。（そうあの目賀田氏である）隣にあった安土山という名称を気に入った信長が「安土城」としたというのが近年の定説である。では、その「安土」の由来はというと先述した安曇の地＝アドのチ＝アヅチとVGならばご理解願いたいところである。こういったことを書き出すときりがないので（公礼八幡の吉士長丹なども観光ポイントとして押さえておきたいところであるが）、昨年にクイズ形式で「(仮) 近江八幡検定」としてVG協会ではどうかという意見をVG30周年記念事業のアンケートで提案したところ、役員に（正解が出せない）一蹴されてしまった。しかし、事務局長という立場でしつこく食い下がり、何とか記念事業の一つには入れてもらった。でも「検討」である。これを事業としてするか、しないかは記念事業（実施）委員会の委員長次第であるらしいが、私としては、する方向で期待します。歴史に正解なんてあるのだろうか。（明智光秀にしてもクーデターを起こしたから悪とは言い切れない。視点を変えれば天皇を守ったのだから正義だともいえるし、また豊臣秀次にしても秀頼が秀吉の実子でないことに抗議したから悪者にさせられ殺された。という説が有力視されてきている。）それ（正解しかダメだという）よりもVGとしては雑学の引き出しを多く持ったほうが有益だと思うのは私だけだろうか。VGには歴史好きな方が何人もいるI氏、M氏、S氏などは私も尊敬するほどの知識を持っておられる。他のVGの方にも（私が知らないだけで）多くの「引き出し」を持っておられると思うので、それら「引き出し」を持ち寄りして（亡くなる前＝失礼なことを申しました）「陽の目」（生きてきてVGで活動した証）を見せたいと思うのであるが、どうであろうか？個人で「知っているだけでは、もったいない」のではないだろうかと会員の皆さんに聞きたいのである。